

# きょうさいだより

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper

## 創立100周年記念巻No.3



昭和46年10月当時の佐世保共済病院 建設中の建物は看護師寮（光葉寮）

### INDEX

- ごあいさつ..... ①
- 創立100周年記念講演会（第2回）開催報告..... ⑤
- 佐世保共済病院 創立 100 周年  
記念式典・祝賀会の開催について
- ICLS コースを終了して
- ガンマカメラの更新
- 第 11 回市民公開講座のご報告..... ②
- 地域医療連携室より..... ⑥
- 県医師会精度管理優秀施設表彰
- トピックス-佐世保川で大熱戦！『共済飛躍年隊』準優勝—
- 編集後記
- 診療活動の現況..... ③
- 外来診療担当表..... ⑦
- 病理診断科 — (1)

# ごあいさつ

院長 木寺 義郎



東日本大震災に続く原発事故で、首都圏でも精神的な不安を訴える人が増えたことが報じられています。心の傷には早めのケアが必要とされますが、風雪を耐え抜いてきた老樹に接すると不思議に心が癒されます。巨樹については環境省が調査を行っており、インターネットで上位 20 本を知ることができます。このうち 12 本は九州に生育しており、近隣では川古（武雄市）に樹齢3千年と言われる楠があります。先人の樹木への愛着によって生育に適した環境が保たれてきたからこそ、現在まで残ってきたものと思います。

当院も地域の皆様の支援を受けながら 100 年の歴史を刻んできました。創設当初の病床数は 50 床で医師の数は 9 名、薬剤師は 5 名、看護婦（師）は見習いを含めて 16 名という体制でした。当時と今の医療機能を病床当りで比較すると医師の数では差は見られません。薬剤師についてはむしろ当時の方が多く、調剤などに人手を要したことが伺えます。一方看護婦（師）の数は現在の約 1/3 相当と極めて少なく、今のように高い看護度で手厚い看護を行わなくても当時は許された時代であり、まさに隔世の感があります。



川古の大楠

超高齢化の時代を迎えて、これからは介護や看護の必要性は益々高まります。変貌する社会情勢のなかで、信頼される病院として新たな歩みを進めるために一層の医療機能の充実を図っていきたいと思います。

## 佐世保共済病院 創立100周年記念式典・祝賀会の開催について

来る平成 23 年 9 月 22 日（木）に創立 100 周年記念事業の締め括りとして、下記のとおり記念式典及び祝賀会を開催いたします。

第 1 部では朝長佐世保市長を始めとした各関係の来賓者をお招きして式典・祝賀会を開催いたします。

また、第 2 部では職員 OB と現職員を交えた懇親会形式での祝賀会を予定しており、この中で当院の新しいロゴマークを決定する等、様々なイベントを企画しております。

次号にて詳細の報告をさせていただく予定です。

**日時：平成 23 年 9 月 22 日（木）（於：佐世保玉屋 文化ホール）**

- |                              |                                |
|------------------------------|--------------------------------|
| ● 第 1 部（来賓者） 11 時 30 分～ 14 時 | ● 第 2 部（OB・職員） 19 時～ 21 時 00 分 |
| 挨拶 尾原 榮夫 理事長                 | 挨拶 木寺 義郎 院長                    |
| 木寺 義郎 院長                     |                                |
| 祝辞 朝長 則男様（佐世保市長）             | 祝辞 山口 國行様（医師 OB 会長）            |
| 久保 次郎様（佐世保市医師会長）             | 太郎浦幸子様（共朋会（OB 会）長）             |

## 第11回市民公開講座のご報告 腎臓内科部長 福成 健一

平成23年8月6日に第11回佐世保共済病院市民公開講座が、8階大講堂で開催され、酷暑の中にもかかわらず多くの市民の皆さんにご来場頂きました。

今回のテーマは『慢性腎臓病 あなたの腎臓は大丈夫ですか』でした。最初に「慢性腎臓病とは？」とのタイトルで、佐賀大学医学部腎臓内科准教授の池田裕次先生に、慢性腎臓病とはいかなる病気か、どのように悪化し、生活習慣の見直しを含めてどのような治療があるのかについて、判りやすい動画を交えたご講演がありました。

次に同教室助教の岸 知哉先生より「慢性腎臓病対策としての慢性腎炎治療」とのタイトルで、慢性腎臓病の中でも最も頻度が高いIgA腎症をはじめ、ネフローゼ症候群、急速進行性糸球体腎炎などといった腎臓の働きが衰えてしまう注意すべき腎臓の病気についても、ご講演頂きました。

最後に、佐賀大学病院肝臓・糖尿病・内分泌内科の安西慶三診療教授に「慢性腎臓病対策としての糖尿病治療」と題して、透析治療となる原因疾患として一番頻度が高い糖尿病疾患について、その合併症、治療、そして自己管理や予防に至るまでの幅広い内容を、ユーモアたっぷりにご講演頂きました。

透析治療を受ける患者さんも増え、腎臓病に対する認知度も高まってきたこともあったか、会場からもいくつか質問やご相談がありました。今回の企画が皆様の腎臓病に対するご理解への一助となりましたら、幸いです。



前方左から座長：松見院長 講演者：岸助教、池田准教授  
安西診療教授 座長：横山院長、福成部長

## 県医師会精度管理優秀施設表彰 生化学検査係長 伊藤 達章

昨年10月に長崎県医師会が行った第49回長崎県医師会精度管理において当院検査科が、調査項目（生化学検査）22項目3濃度合計66調査検体中全ての項目で100点であった為、極めて優秀であるとして先月7月23日長崎県医師会館にて表彰をうけました。

この精度管理に参加した施設は県内で82施設あり、そのうち95点以上の施設が25施設（30.5%）100点満点の施設は17施設（20.7%）でした。



生化学検査室スタッフ（中央が伊藤係長）

日々、正確、精密な検査を心がけて職務をおこなっている我々にとって、その仕事ぶりが評価されたことは大変名誉なことだと思いますが、今回の表彰に奢ることなくこれからも信頼される検査室として日々精進してまいりたいと思っています。

# 診療活動の現況 — 病理診断科 — (1)



烏帽子岳を背景にしたスタッフ

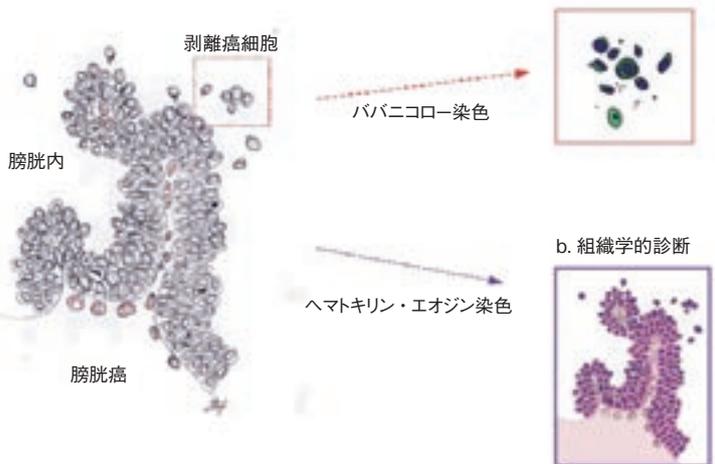
## 1. はじめに

平成 20 年 3 月、“病理診断科”は新しい標榜診療科として認められ、“病理診断”が医行為として医療法で定義されました。当院も平成 23 年度から“病理診断科”として標榜、臨床検査部から独立することとなりました。それに伴い北館 7 階へ平成 23 年 6 月に引っ越しました。新仕事場が手術室（北館 8 階）に近い事は手術検体移動に伴う諸問題発生防止や病理診断業務などの迅速化に繋がります。部屋は硝子張りで明るく文字通り開放的で、快晴の日などはジャスコ、親和銀行の背中越しに、新緑の烏帽子岳が展望できます。

## 2. 病理診断科とは

病理診断科の標榜化、独立といっても実際の業務は従来と変わりはありません。主業務は 1) 病変部から剥離した細胞や吸引採取した細胞を顕微鏡下に形態異常等を判断し診断する細胞学的診断（図 1-a）、2) ほ

図 1 病理診断



ぼ全科から診断確定のため病変部から採取された組織（生検材料）や外科的手術などで採取された病変組織（手術材料）の肉眼的診断および顕微鏡等を用いた病理組織学的診断（図 1-b）、3) 外科的手術中に採取された病変組織を即座に凍結標本作製し短時間で診断する術中迅速診断、4) ご遺族の承諾のもとに病気で亡くなられた患者さんの剖検および病理解剖診断から構

成されます。

質のよい治療および安心した治療を患者さんに提供するため、“病理学的診断”から病変部位の①性状（腫瘍性か炎症あるいは反応性か、腫瘍であれば良・悪性やその悪性度および進行度の判定）の把握、②病理診断に基づく治療方針の決定、③治療の評価：腫瘍残存の可能性など、④治療効果の判定、⑤予後などの判断を行います（図 2）。

図 2 病理診断と治療

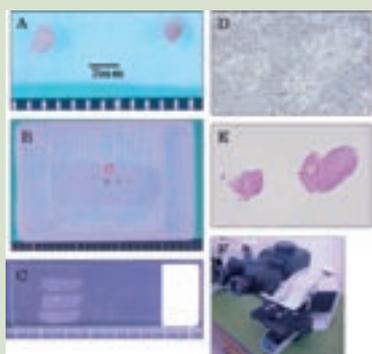


## 3. 病理診断における基本的染色とは

採取された細胞や組織は通常無色ですから顕微鏡で病変の有無を判断するために、ある種の染料を用いて細胞や組織中の各部位を染め分けて見る必要があります。染料はアカミノキ（落葉低木、ギリシャ語で“血の木”の意味し材の中心部が赤くなっています）から得られる樹液の色素成分ヘマトキシリンを用いる染色が基本となります。パパニコロウ染色（ゲオルギオス・パパニコロウと言う医師の名前に由来していますが、基本的にはヘマトキシリンを用います）やヘマトキシリン染色が細胞、組織切片を見る基本的な染色法で最も大切な染色法です。下図は胃から採取された 1 mm 前後の微小検体が染色され顕微鏡で診断されるまでの過程を示したものです（A → F）。

### 生検検体が診断されるまで

- 胃から採取された大きさ 1 mm 前後のホルマリン固定後の 2 検体。
- 検体をパラフィンでブロック化。
- 3 μm 前後で薄く切られ硝子板上の 4 検体。
- C の顕微鏡写真で無色の 2 検体。
- ヘマトキシリン・エオジン染色で染色された 2 検体。



F. 顕微鏡で組織学的診断。

#### 4. 当院の病理診断科

採取された細胞や組織はパニコロウ染色やヘマトキシリン・エオジン染色などによる染色後に病理医の目で

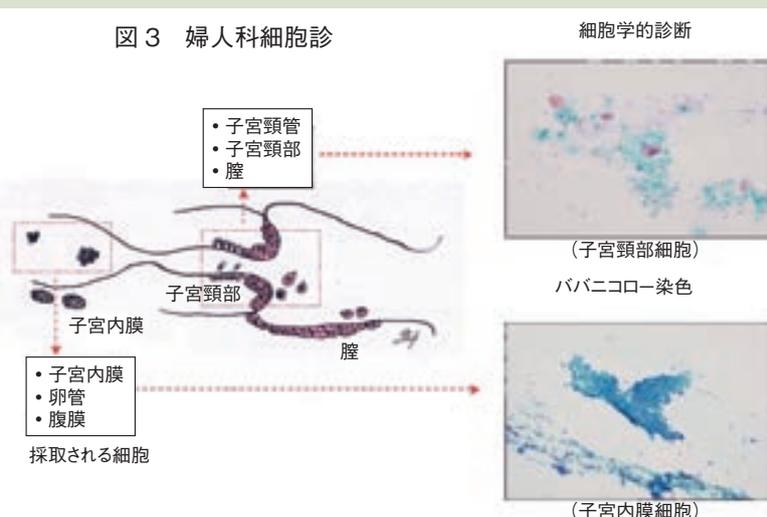
異常の有無を検索することで病理診断が下されます。また通常の染色で診断が困難な症例においては免疫染色など特殊な手法を用いて病理診断が行われます。染色の良否は病理診断に重要な影響を与えますが、当院では通常の染色と免疫染色は自動染色装置が導入されており安定した標本作製がなされています。

### I. 細胞学的診断（細胞診）

#### I-1. 婦人科領域（図3）

病的帯下や不正出血など婦人科症状を呈する患者さんの膣、子宮頸部や子宮内膜から細胞を剥離採取しパニコロー染色を施して顕微鏡下に少なくとも2人の細胞検査士がスクリーニング（ダブルチェック）後に細胞専門医が確定診断し婦人科に報告します。

図3 婦人科細胞診



#### I-2. 婦人科領域以外

血尿や呼吸器症状（血痰や咳など）の患者さんの尿中や喀痰中などから剥離した細胞を採取し、細胞をパニコロウ染色やギムザ染色で染めたのち婦人科領域と同様の過程を経て細胞学的診断を臨床に報告します。

また乳腺や甲状腺など剥離細胞が容易に得難い臓器では針を用い直接患部より穿刺吸引をすることにより細胞を採取し同様の過程を経て細胞学的診断を報告します。

細胞学的診断は採取時に比較的苦痛を伴わず、外科病理組織診断に比べ容易に細胞が採取され、患者さんへの負担も軽く頻繁に行われる診断法です。

現在、当院では日本臨床細胞学会認定の細胞検査士3名がスクリーニングを行っています。平成22年の細胞診断件数の約79%が婦人科領域の細胞診で占められており約9%が悪性ないし悪性疑いの結果でした。尿細胞診は全体の約12%が悪性ないし悪性疑いは約14%でした。尿細胞診で疑陽性例が多くみられるのは尿中の細胞が変化を受けやすいことによる結果と考えられます。

スタッフ：所属学会・認定

井関充及（病理診断科部長）：

日本病理学会評議員・認定病理医、病理専門医研修指導医、日本臨床細胞学会評議員・細胞診専門医、日本神経病理学会評議員、国際アカデミー病理学会 木寺義郎（病院院長、婦人科）：

日本臨床細胞学会細胞診専門医 鶴地伸宏（婦人科部長）：

日本臨床細胞学会細胞診専門医 林 洋子（長崎大学第1病理）：

日本病理学会、認定病理医 川崎辰彦（臨床検査技師）：

日本臨床細胞学会細胞検査士、国際細胞検査士 田中義成（臨床検査技師）：

日本臨床細胞学会細胞検査士、国際細胞検査士 久保 綾（臨床検査技師）：

日本臨床細胞学会細胞検査士、国際細胞検査士

※病理診断科の診療活動の現況は、次回号と2回に分けて掲載致します。次号では外科領域の病理診断からご紹介致します。

## 創立100周年記念講演会（第2回）開催報告

診療部長 山田 潤

演 題：国際交流華やかな明治期の長崎と佐世保

講演者：長崎総合科学大学 環境・建築学部

人間環境学科教授 ブライアン・パークガフニ氏

平成23年7月2日創立100周年記念としての第2回記念講演会が行われました。当日は猛暑でしたが、ブライアン氏はテレビの出演などで知名度も高いためか多数の参加者で盛り上がりました。長崎は江戸時代末期より明治にかけて数多くの外国人が訪れています。その中の一人、有名なトマス・グラバーは長崎に溶け込み、日本の文化・経済等に影響を与えました。知名度の高くない多くの外国人達の長崎、佐世保での足跡についてもユーモアを交えて熱く語っていただきました。ブライアン氏の講演は長崎、日本への愛情を強く感じましたが、我々日本人も郷土、日本の文化、歴史をもっと知り、誇りをもって語りたいものだと思います。



## ICLS コースを終了して

救急看護認定看護師 乾 広貴

平成23年7月29、30日に、呉共済病院の石川雅巳先生（麻酔・救急集中治療部 部長）をお迎えして、研修会を開催しました。

具体的な事例を交えて臨床に活かせる内容でした。2日目のICLS<sup>\*1</sup>コースは、インストラクター3名を交え研修医2名看護師10名を対象に行われました。午前中はBLS<sup>\*2</sup>と気道管理・除細動器の使用について、午後からは心肺停止時の対処方法について実践形式で行われ、受講生全員が無事に修了書を貰うことが出来ました。修了後のアンケートでは、「今後も続けて欲しい」という希望が多く、当院の救急医療の質の向上のためにも今後も研修の継続が必要であると考えます。機材の面など難しい点もありますが、みなさまの協力を得ながら充実した研修を行えるよう努力していきたいと思えます。

※1：「ICLS」とは「Immediate Cardiac Life Support」の略で、「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」の意味です。

※2：「BLS」とは「Basic Life Support」の略で、「1次救命処置」の意味です。



## ガンマカメラの更新

放射線検査技師長 堤田 満

ガンマカメラを使っておこなわれるRI検査はアイソトープ検査とも呼ばれていて、ごく微量の放射性物質を注射して特定の臓器や腫瘍などに集積させ、そこから出る放射線を画像にする検査です。ガンマカメラの特徴は、X線検査やCT検査などが主に臓器の形をとらえるのに対して、臓器の働き（機能）をとらえることができることです。

平成8年11月に導入された当院の先代のガンマカメラは、当時としては最新のシーメンス製マルチスペクト2でしたが、15年の間にあちこち故障が頻発するようになり今回更新となりました。

今回更新されたガンマカメラはGE製で、特長としては3D表示の部分が増え、多機能を有する事です。たとえばCT画像とのFusion（融合）が出来るようになり、腫瘍の検査では目的とする臓器の中での腫瘍の位置関係を明瞭に捕らえることができるようになりました。心臓検査では、心臓CT検査とのFusionにより、心筋と冠動脈の状態を的確に診断することができるようになり、治療方針の決定や治療効果の判定にも威力を発揮しています。撮影時間の短縮や画質の向上も新たな進歩としてあげられます。



GE社 最新型ガンマカメラ

地域医療  
連携室より

Part.  
13



## 宇野眼科 (UNO EYE CLINIC)

〒857-0862 佐世保市白風町1-13 JR九州佐世保ビル1F  
TEL 0956-76-7700

院長 宇野 英明 先生

宇野眼科医院の宇野英明と申します。

今回は当院の紹介と共済病院との関係についてご紹介させていただきたいと思います。

私は若葉町にあった宇野眼科の次男として昭和50年に生をうけました。佐世保北高校から福岡大学に進学し、主に福岡県内にて研修の後平成18年4月から平成22年9月までの4年半、佐世保共済病院眼科に在籍しておりました。

共済病院では白内障、緑内障手術はもちろん、網膜剥離や外傷などの急患手術も行っておりました。共済病院は他科との連携が円滑であり、全身状態の悪い方でも安心して手術が出来ました。また新たな治療である加齢黄斑変性症に対する光線力学療法、硝子体注射も導入させていただきました。

若葉町の宇野眼科は父の急逝にて閉院しておりましたので、平成22年11月新たに佐世保駅前に宇野眼科医院を開院致しました。当院は外来診療、手術を行っております。手術内容は共済病院時代と変わりなく、硝子体手術も含め全例日帰りで行っております。また隣にはコンタクト、メガネ専門店を併設しており、処方のが的確に行われるように努めております。

共済病院との連携としては、入院手術が必要な方には共済病院の開放病床を利用して手術執刀をさせていただいております。また高次精査が必要な患者様を受け入れていただいております。

県北地区は厳しい医療情勢ですが、今後も基幹病院と共に地域医療に少しでも貢献できるよう専心努力していきたいと思っております。



宇野眼科スタッフの皆さん（中央が宇野院長）

## トピックス

医療連携室課長 木下 常伸

### — 佐世保川で大熱戦！『共済飛躍年（ひやくねん）隊』準優勝 —

去る7月24日（日）に行われた「させぼボートフェスティバル2011」のローボートレースの部に、当院から『共済海 Men 隊』、『共済がんばる隊』、『共済水軍2番隊』、『共済飛躍年隊』の4チーム計13名で参加しました。

参加38チームによる大熱戦の結果、『共済飛躍年隊』が佐藤由佳婦人科医師、加藤純子連携室師長の意気のある櫂捌きと、中山事務部長の巧みな舵取りで、海上自衛隊、海上保安部等の強豪チームを抑え、見事準優勝。また、閉会式では『共済水軍2番隊』が福田俊郎大会会長より『会長賞』を頂きました。

地域のイベントで共済病院の『元気！』を発信するという目的以外、予選通過すら考えていませんでしたが、調子に乗らずに、波に乗ったことが勝利の要因だったと思われます。ちなみに佐藤由佳先生は元佐賀大学医学部女子ボート部キャプテンだそうです。

皆様のご協力、ご声援ありがとうございました。



レース中の共済飛躍年隊

## 編集後記

創立百周年にあたり…100年前（明治44年）頃の佐世保は、明治31年に鉄道（現JR佐世保線）が開通して、福岡、佐賀方面とつながり、明治35年には人口4.5万人を数え町制を飛び越えて市に昇格するなど、県下第二の都市になるべく、急成長をしていた時代でした。

編集委員 栄喜貴穂

# 佐世保共済病院 外来診療担当表

平成23年9月15日現在

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考(専門分野・特徴など)
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
腎臓内科	部長	福成 健一	●						●				腎臓疾患・人工腎臓
	医員	吉原 万貴			●			●					腎臓疾患
	〃	陣内 寛	●						●		●		腎臓疾患
循環器内科	部長	金谷 誠司					●		●				循環器疾患
	非常勤医	田淵くみ子									●		循環器疾患
	〃	横山 晋二					●						循環器疾患
	〃	溝口ミノリ			●								循環器疾患
	〃	大野 聡子									●		循環器疾患
神経・漢方内科	医長	樋口 泰雄	●		●				●				内科・神経内科・漢方・禁煙外来
呼吸器内科	非常勤医	溝口 祐輔									●		呼吸器疾患
	〃	浅井友香里					●						呼吸器疾患
消化器センター			●		●		●		●		●		(診療内容) 上部・下部消化管、肝・胆・膵疾患の検査及び治療 (検査内容) 胃カメラ、大腸ファイバー、ERCP、PTCD等
外科	外科顧問	松永 章							●				消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	診療部長	井原 司						●	●				消化器外科・肝胆膵臓外科・内視鏡下外科・一般外科
	部長	橋本 光生			●						●		消化器外科・肝胆膵臓外科
	〃	原田 洋			●						●		消化器外科・乳腺外科・一般外科
	〃	富崎 真一	●				●						消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	医長	坂下 英樹	●				●						血管外科・一般外科
	医員	福田 勇人	●						●				消化器外科・一般外科
	非常勤医	川畑 方博			●								肝胆膵臓外科・消化器外科・一般外科
〃	武田 雄二										●		呼吸器外科(第1・3・5週のみ)
乳腺外来			●		●		●		●		●		※乳癌検診は、10時までに受付を行って下さい。(要予約)
小児科	部長	岡 尚記	●		●		●		●		●		小児一般、小児アレルギー疾患、気管支喘息
	乳児健診					●							火曜 午後1時から診察開始
	慢性外来							●					水曜 午後2時から診察開始
	喘息外来								●				木曜 午後2時から診察開始
脳神経外科	部長	川口 務	●		▲		●		●		●		脳神経外科 ▲は10時30分までに受付を行って下さい。
	頭痛外来(完全予約制)			●	●			●					月曜、水曜:午後2時30分~午後4時30分 火曜:午前11時~午後0時30分
整形外科	副院長	萩原 博嗣	●								●		膝・股関節疾患、人工関節置換術、骨折、スポーツ障害、小児整形外科
	部長	久我 尚之			●		●		●				脊椎外科、腰痛、骨・軟部腫瘍、骨折
	医長	花田麻須大	●						●		●		手の外科、マイクロサージェリー
	医員	水城 安尋	●		●		●				●		肩関節疾患、肩関節鏡視下手術、足部疾患
	〃	志田 義輝	●						●				整形外科一般
	〃	橋川 和弘	●		●							●	整形外科一般
〃	石橋正二郎			●		●		●				整形外科一般	
皮膚科	医長	大津 正和	●	●	●		●		●	●	●		アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、足白癬、帯状疱疹、皮膚腫瘍
	医員	立石 安希	●	●	●		●		●	●	●		男性型脱毛、陥入爪、ピアス、皮膚腫瘍手術(火・水・金の午後)
泌尿器科	診療部長	山田 潤	●				●				●		尿路結石、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路感染
	部長	江口 二郎	※		●				●		●		男性不妊(江口部長) ▲の診察は第2週のみ10時30分からです
	医長	中村 貴生	※		●		●		▲				※:第2・4週(江口部長) 第1・3・5週(中村医長)が診察を行います
産婦人科	院長	木寺 義郎	●						●				産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患
	部長	鶴地 伸宏	●		■		●		●				腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患
	〃	木下秀一郎			●		●		■		●		●:婦人科診療日 ■:産科診療日
	医員	田中 章子	●		●		■				●		▲の診察は10時からです(病棟回診後に診察開始のため遅れます)
〃	佐藤 由佳	●■		▲				●		■			
眼科	医長	原 潤	●		●	※	●	※	●		●		白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、網膜剥離手術、眼瞼下垂手術
	医員	岡村 寛能	●		●	※	●	※	●		●		翼状片手術、レーザー光凝固術、眼瞼痙攣のボツリヌス注射など ※:火・水曜の午後は術前検査と特殊再来(要連絡)
耳鼻咽喉科	医長	垣内 康德	●		▲		●		●		●		アレルギー性鼻炎のレーザー治療・小児の耳鼻咽喉科疾患
	医員	西嶋 利光	●	●	▲		●		●		●		耳・鼻・咽喉頭・頸部などの手術 ▲は10時までに受付を行って下さい。
放射線科	部長	野々下政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。										MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査
	医員	江畑 智広											小佐々医員は9/30で退職予定です
	〃	小佐々信介											
麻酔科	部長	深野 拓	●				●		●		●		月~金午前ベイン・緩和ケア外来
	医員	木本 文子			●		●				●		月~金午後は手術麻酔
	〃	矢野倫太郎	●		●				●				
	非常勤医	吉村 真紀											
	〃	別府 幸岐											
病理診断科	診療部長	井関 充及											細胞診断・病理組織診断全般
歯科 口腔外科	医長	角町 鎮男	●	●	●	●	●	●	●		●	●	歯科・口腔外科(紹介患者のみ新患受付)
	医員	矢内 雄太	●	●	●	●	●	●	●		●	●	顎変形症(外科的矯正)・インプラント・歯牙移植・顎関節症・マウスピースなど
健診センター	医長	原 敬一	※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。										